# 令和5年度「地域づくり表彰」 審査後の総評

創意と工夫を活かした個性ある地域づくり活動を奨励するこの「地域づくり表彰」は、**昭和 59(1984)年**から始まり、**今回が第40回目**に当たります。 今年度も全国各地から昨年度を上回る **計41件**の多様な事例が推薦されて参りました。 厳正な審査の結果、**総合的に最も優れた取組である 「国土交通大臣賞」**3事例を始め、

地域活性化の観点で優れた取組である **「全国地域づくり推進協議会会長賞」** 2事例
国土づくり・地域づくりの観点から優れた取組である **「国土計画協会会長賞」** 1事例
地域経済や産業振興の観点から優れた取組である **「日本政策投資銀行賞」** 1事例
注目すべきテーマ等がある優良な取組である**「地域づくり表彰審査会特別賞」** 1事例

の、**8つの優良事例**を表彰することといたしました。

今年度の表彰事例をみると、いずれの取組も、「**自分事としての課題**」の認識から出発しており、また、「課題」は似通ったように見えても、「**課題解決**のアイデア」は**多種多様で地域の特色を生かした独自のもの**がありました。

① 独自性としては、**課題解決の足がかり**として、地域固有の魅力を価値創出の元にしつつ、その**活動の着手前は価値を生んでいなかったもの**（古民家、放置竹林、時代に取り残された倉庫街、保育所の空き枠など）**を有効活用し**、大きな投資をすることなく課題を解決し、更にその活動の多くは無形の「**新しい価値**」を産み出していたことが挙げられます。 「**新しい価値**」とは、保育園留学したご家族と地元の方々の間の交流が生み出す**心の温かみ**、花手水（はなちょうず）が生み出した回遊する街歩きの**ワクワク感**、神明大杉（しんめいおおすぎ）の**ナラチィブな(物語性ある)製品群**などです。

その「**新しい価値**」の発信は、広く外の社会に対して開かれたものでありつつも、最終的には、**地域の魅力の再認識、地域への誇り・やりがいの醸成**を通じ、活動の中心となっている**地域の方々へ還流**しており、それが活動の持続可能性をもたらすという好循環を創り出していました。

② 地域づくり活動の広がりを、より大きく、より魅力的にしていたのは、複数の異なる要素の「**マリアージュ**（調和した融合）」であるように感じました。 例えば、「若者と高齢世代」の知識やアイデアの世代を超えた交差、「農業と福祉と商業」の連携、「歴史遺産と花(自然)と商業」の組み合わせなどです。

この点は、**新しい「国土形成計画」**で示された「**相互連携による相乗効果の発揮**」とも相応するように感じます。

③ 特に、行政をはじめ、地域にある**既存のしくみの多くは「縦割り」**のものですが、今年度の優良事例からは、**それらも上手く組み合せる**などの**「しくみのデザイン力」が、かなり上がってきている印象**を感じられました。

④ 今年度の事例では活動のキーマンが、外から入ってきた方であるケースは比較的少なく、「**地域の中の方**」が主導するケースが多かったこと、および、優良事例の多くが「**若手主導の提案**」である点も印象的でした。

加えて、それぞれの活動の中心になっている若いキーマンたちが、従来からある商店、地場のサービスの利用者、空き店舗の大家さんなど、**もともとその地域におられる方々の目線を尊重**している点が印象的でした。

そのことが、信頼と共感、新たな「**化学反応**」を生み出し、活動を地域に溶け込ませる上で重要な役割を果たし、更には、活動の持続可能性や展開を足元で力強く支える要素ともなっていたと思います。

⑤ 手法論で言えば、DX時代を代表する「フェイスブック」「インスタグラム」「クラウドファンディング」などの**SNS(ソーシャルネットワーク)的手法**が、**空間を超えた「共感」を広げる手段**として有効に機能していることに気づかされました。 そうした手段は、翻って、地域にいる方々に対しても、活動に元気を与え、活動の選択肢に多様性をもたらしていたと思います。 また、多くの活動が「**社会的起業**」と呼べるものになってきており、その形をとることによって、より一層の活動の広がりと持続可能性を生み出しておりました。

このように、今年度の事例からは、担い手や手法は時代時代で変われど、**地域づくりの成否を左右するものは、**「**住民との信頼感の醸成**」と「**内外の共感の広がり**」であることを改めて強く感じた次第です。

なお、「**審査会特別賞**」については、地域づくりにおいて、**「農福連携」を始めとした福祉との連携**が、今後、拡大・進化をしていくことに注目し、期待していきたいという趣旨もあり選定したものです。

受賞された皆様には、表彰を機に、ますますの活発な取組を期待申し上げるとともに、全国各地の皆様が、各事例をご参照され、更に機会がありましたら、取組現場をご訪問いただき、当事者の皆様と交流される等により、個性的で魅力あふれる地域づくりの輪が、更に一層広がっていくことを期待しております。

令和5年度「地域づくり表彰」審査会 座長 坂 田 一 郎
（東京大学 地域未来社会連携機構 機構長 兼 工学系研究科教授）

---

（※）「マリアージュ」＝ 調和ある組み合わせ。もともとは料理用語で、適切な料理とワイン、食材とソースのように、異なる存在を相性良く出会わせることで産まれる組み合わせの妙や調和の価値のことも指す。